

東部ことぶきだより

東部ことぶきのおもな活動 2012 年 12 月～2013 年 6 月

新年研修会・懇親会 2013.1.22

講演は塔山小学校の齊藤久校長先生の「地域と小学校」のお話。学校と地域が協力して子供たちを守ることにしたいへん有意義な講演でした。

①。今井久美子氏による体操も日常の動きを少し変えるだけで新たな刺激で脳が活性化することを見ることができました。

②。懇親会は、懇談と全員の故郷の歌の合唱で大盛り上がり。合唱指導は、島田・森本・松井・斉藤さん③

参加者 60 名。



①



②



③

牡丹の名所東の長谷寺＝薬王院へ牡丹観賞ウォーキング 2013.4.27

区民活動センターを出発し、⇒神田川遊歩道を薬王院を目指し、薬桜の下を歩きました。⇒途中で、落合処理場で休憩し、藤棚を観賞し、⇒薬王院まで

参加者 17 名



地域の子どもたちとの交流

◆このゆびとまれ／むかしあそび（キッズ・プラザ塔山）2012.12.18,19

親子もちつき会（キッズ・プラザ塔山）2013.1.26



キッズ・プラザ塔山の年末年始の行事「このゆびとまれ むかしあそび」（昨年暮「親子もちつき会」（新年）に大ぜいの方が参加しました。「もちつき会」では、昔取った杵柄で、もちにきぶすきな粉を作ったり、火おこしで、ロイロを蒸す釜と大鍋の水を沸かす仕事をサポートしました。つきたてのもちとアツアツのトン汁を食べ、その後「昔あそび」など子どもたちと遊び、集まった他のグループの方と懇談をしながら楽しい時を過ごしました。参加者は鈴木富、双木、森林、緒方、喜多村、斎田、村守、浅香、伊井、小田切、坂井、二宅、水野、峯元さん。

◆さくら館まつり-伝承あそび 2013.3.3

「さくら館まつり」の「伝承あそび」に参加しました。地域の子どもさんや保護者の皆さんと、こま回し、べいごま、けん玉、折り紙、あやとりなどで楽しく交流しました。特に小さいお子さんがこまを回す姿は可愛らしく、童心に帰った楽しい一日でした。参加者は植松、喜多村、斎田、村守、川俣、中田、水野、峯元さん。



平成 24 年度事業報告

1. 東部ことぶき事業

・平成 23 年度総会開催

時：平成 24 年 6 月 26 日（火）

講演：「身近な事故に対する応急処置」
中野消防署宮園出張所主任消防司令補
岡崎博氏

所：東部区民活動センター 参加者：61 名

・新年研修会開催

時：平成 25 年 1 月 22 日（火）

講演：「地域と小学校」
塔山小学校校長 齊藤久氏

体操指導：今井久美子氏

懇親会：懇談と合唱

（合唱指導：島田・森本・松井・斉藤さん）

所：東部区民活動センター 参加者：60 名

・バス旅行開催

時：平成 24 年 11 月 5 日（月）

参加者：39 名

コース：紅葉の名所花貫溪谷と袋田の滝見学
昼食：湯葉こんにゃく料理（関所の湯）

・薬王院へ牡丹観賞ウォーキング開催

時：平成 25 年 4 月 27 日（土）

参加者：17 名

コース：神田川→東中野→落合処理場（花の
公園）を経て薬王院へ

・親睦麻雀会

時：平成 25 年 4 月 17 日（水）

平成 25 年 5 月 17 日（金）

所：宮園高齢者会館

・定期世話人会 12 回開催

・ことぶき会報 2 回発行

・ことぶきの日 11 回開催

・ことぶきの日通信 11 回発行

2. 地域との交流

・東部区民活動センター主催「東部まつり作品展」に出展

時：平成 24 年 10 月 6 日（土）・7 日（日）

所：東部区民活動センター 出展者：10 名
エコバッグ体験コーナー開設（指導：今田さん）

・友愛クラブ連合会主催東部演芸大会のサポート

時：平成 24 年 9 月 29 日（土）

所：塔山小学体育館

参加者：8 名

・ポイ捨て禁止運動のボランティアに参加（東部ボランティアと共同）

時：平成 24 年 9 月 7 日（金）

所：東中野駅頭でティッシュペーパー配布
参加者：4 名

3. 児童館関係の応援

・キッズ・プラザ塔山「このゆびとまれ／囲・将棋であそぼう」

時：平成 24 年 7 月 26 日（木）・27 日（金）

所：キッズ・プラザ活動室（塔山小学校内）

・キッズ・プラザ塔山「このゆびとまれ／むかしあそび」

時：平成 24 年 12 月 18 日（火）・19 日（水）

所：キッズ・プラザ塔山活動室および校庭・
体育館（塔山小学校内）

参加者：13 名

・キッズ・プラザ塔山「親子もちつき会」

時：平成 25 年 1 月 26 日（土）

所：塔山小学校校庭 参加者：3 名

・さくら館まつり「伝承あそび」

時：平成 25 年 3 月 3 日（日）

所：さくら館 参加者：8 名

4. なかの生涯学習大学関係

・地域学習①「地域の仲間と語ろう」

時：平成 24 年 7 月 11 日（水）

所：東部区民活動センター

・地域学習②「地域の活動を探る」

時：平成 24 年 11 月 7 日（水）

所：東部区民活動センター

274 年前に「中野に象がやってきた」

第 34 期 儘田 宏

昔から、「中野に象がいて、中野坂上の成願寺裏側に象小屋があった」との言い伝えがあります。場所は「本町2丁目32番」の朝日ヶ丘公園の場所です。伝説は、「1728年 オランダから將軍吉宗に象が二頭、献上され、一頭は亡くなり一頭が中野村の源助に預けられ観覧に供されたが、亡くなり骨と皮が宝仙寺に寄贈され昭和20年の東京大空襲で焼失した」。

地域の歴史を調べる為、複数の文献を読んでおりましたら「中野の象」について真相が判りました。「オランダから吉宗に献上」ではなく、「享保12年（1727年）吉宗自らが発注して求めた物」であり、清国の商人によってベトナム人の像使いと共に、長崎（鎖国で長崎のみ開港）に牡と雌の二頭が船で運ばれた。旅の疲れか長崎で雌は亡くなり、牡の7歳の子象は陸路で二ヶ月かけて江戸まで運ばれた。途中で象を見たい人の熱狂的な歓迎で、京都御所では時の中御門天皇と靈元上皇も観覧を望み、象も無位無冠では謁見できず急遽、「従四位広南白象」の官位を授けての謁見となった。吉良上野介が従四位、浅野内匠頭が五位であり、象に対して朝廷の高い歓迎振りが判ります。

將軍吉宗が謁見した時に、19歳の家重は一目見るなりそのまま奥に引っ込んでしまったそうです。吉宗は大変に喜び、浜御殿（今の浜離宮恩賜公園）で飼育、時々自ら餌をやりに行きました。一日の餌は、米8升、あんこなし饅頭100個、藁120kg、みかん100個、笹の葉90kg、草120kg、芭蕉の葉2本でした。餌代が半端ではなく、俵約家の吉宗は翌年に象を払い下げることでお触れを出した。払い下げに対して、象が大量の餌を食べることを知っている人々は、誰も引き受け手がなく、13年間は浜御殿で飼われていた。払い下に対して、17～18人が名乗りを

あげたとの説もあります。

幕府は、中野村とその周辺94ヶ村の総名主である堀江卯右衛門に相談し、浜御殿で餌運びや糞の処理を一手に引き受けていた、中野村に住む「見晴らし」という屋号の掛茶屋を営んでいた農民の「源助さん」に預けることにしました（1741年4月）。以前から源助さんは、象の糞の処理を引き受けており、糞を乾燥させて「象洞」という薬として、当時流行していた天然痘とはしかに効くと宣伝、現在の淀橋あたりで売り出しておりました。象が中野に到着し、成願寺裏に象小屋を建て（現：本町2-32）幕府から餌代をもらい、象小屋を訪れる人から見物料を徴収しておりましたが、寒さもあり寛保2年（1742年）に象は病死、その頭蓋骨・牙・鼻の皮は地元の宝仙寺に預けられました。昭和20年5月25日の東京大空襲で焼失し現在は炭化した牙1本が残っているだけです。

「見晴らし」という掛け茶屋を営んでいた兼業農家の源助さんはとても商才に長けていた方でした。中野区中央図書館で「中野の歴史の中の商人たち」について展示されており、「みはらし源助さん」についての記載があり、以下、転載します。

享保17年（1732年）4月、「見晴らし」という掛茶屋を営んでいたが、幕府から払い下げられた象を成願寺の裏に立てた象小屋で飼育し、見物客を集めた。見物客に売った黄・白・青の三色まんじゅうは一日に四斗タル3杯分が売れ、一つ一文であることから「中野の一文まんじゅう」と名物になった。江戸時代末期に焼けてしまい、関東大震災後、子孫が雑貨屋「みはらしや」を東中野で開いている。

私は、1月24日、東中野に行き子孫の方にお会いしました。快く当時の伝わるお話しが聴けました。帰宅してから細かなことを調べた結果、象が亡くなった日は旧暦の12月11

日で、新暦では偶然にも今日1月24日で、驚くと共に象が巡りあわせてくれたご縁かも知れません。

日本橋「高島屋」探訪記

生2期 元木英雄

高島屋日本橋店が、百貨店建築で初の重要文化財の指定（平成21年）を受けたことを最近になって知りました。

高島屋主催の重要文化財見学ツアーがあるようですが、曜日・時間が合いませんので、お客様コンシェルジュとかいう案内係りの人の説明とパンフレットをいただき1人で探訪してきました。

昭和8年に日本生命が日本生命館として建設し、7階部分は日本生命が事務所として使用、その他の階は高島屋が借り受けて百貨店として営業したそうです。

昭和38年に日本生命が転出、戦後復興から高度経済成長期に増改築を繰り返し、昭和40年には1街区を占める大店舗になりました。

建築にあたっては「東洋趣味を基調とする現代建築」という様式を求めた設計図案で1等当選した高橋貞太郎の案が採用され、重厚な西欧の歴史様式に和風建築の意匠が随所にみられる建物になりました。高橋貞太郎は高島屋のほかに、上高地の帝国ホテル、伊東の川奈ホテルなどの設計もしています。

増築部分は村野藤吾の設計によるもので、当時としては珍しいガラスブロックを使った壁面は近代的な造りになっています。昭和8年の竣工から

約30年間にわたる増築を重ねても見事な調和を見せています。

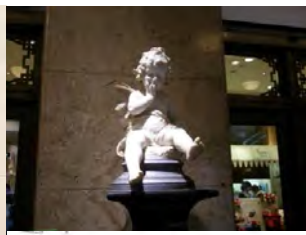
まず、正面玄関と外観(写真1)から見ていきましょう。正面口の鉄の扉を良く見ると、美しい彫刻が施されています。ドアノッカーが付いていますが、叩けばだれか開けてくれるのかな？

左手には大理石でできている水呑場の跡が残っています。過日見学した日銀本店には馬の水呑場がありました。当時は人間も馬も水呑場が必要だったのでしょう。ヨーロッパに行くと良く見かけますよね。

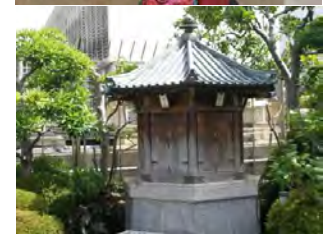
正面入口上の欄間の彫刻も凝っています。西欧と和の融合の証のように見受けました。確かに外観を見てもヨーロッパの要素と、和の建築手法が上手く生かされています。正面の柱には、かつて何かを取り付けられていたかのような跡があります。いまは正面入口に4基しか照明が取り付けられていません。

戦時中（大東亜戦争）の金属回収令（武器生産に必要な金属類回収を行う目的で制定されました）で供出し取り外されたままのようです。内地は昭和16年9月1日より、外地（朝鮮、台湾、樺太、南洋諸島）は10月1日より施行されました。

南側の増築部分を見上げると、5階バルコニーに白い蛇のオブジェ(写真2)が飾ってあります。こんなのあるの知りませんでした。今年の干支は巳、いいものを見させてもらいました。笠置季男の作品だそうです。商売繁盛のために設置されたのではないのでしょうか。



(1)(2)(3)(4)
(5) (6)(7)



もうひとつ気になったのが、南北両側に見られる2階部分の窓の位置に、入り口があってもいいのではないかと思われる装飾が残っています。建てられた当時は日本生命館というだけあって、日本生命用の入り口があったところだそうです。

本館後ろの道路を隔てて建てられた別館には本館の4階と6階から渡り廊下でつながっています。4階の特別食堂には、うなぎの名店野田岩が入っていました。

さあ今度は店内を見ていきましょう。

各入口では大理石のキューピット(写真3)が出迎えてくれます。昭和40年代にイタリアから輸入したもので、高価なものだそうです。

正面入口からつづく1階と2階、2層分の大理石の柱が並ぶ吹き抜けは、良く見るとヨーロッパの歴史様式を基調に、和風建築の要素が融合されているのが見てとれます。

シャンデリアは創建当時はきらびやかなものが付いていたそうですが、これも戦時中に供出されてしまったようで、現在のものは村野藤吾がデザインしたもので、シンプルで上品なものです。

柱や階段部分の大理石を見ると、アンモナイトの化石が見られます。エレベーター脇の大理石は茶色、日本建築にこだわり木の柱に見えるように、あえてこの色にしたそうです。

正面6基のクラシックな手動式エレベーターは、創建当時のものを改修しながら現在も使っているそうです。アメリカのオーチス社製で、表扉は透明のガラス、内扉はピカピカに磨かれた真鍮のジャバラ式扉で、高島屋を代表する顔といえます。いままで気が付きませんでしたが、エレベーター・ガールのユニフォームとローズちゃん人形(写真4)は同じ衣装だそうです。

南側13号機エレベーター(正面から入って右手奥にあります)の扉は2機とも東郷青児のデザイン画です。あまり利用することのない場所にあるエレベーターなので今まで見過ごしていましたが、裸婦像の素晴らしいデザインです(写真5)。

エレベーターで屋上へ行きましょう。

屋上のエレベーターホールも和と洋のコラボレーションが美しいです。ゆったりとした1人掛け用のソファが置いてありますので、休憩にはもってこいの場所です。OLが2人遅い昼食の弁当を食べていましたが、お客さんの姿はあまり見かけませんでした。屋上にある噴水(写真6)も創建当時のもので、そのころは7階の大食堂にあったそうです。今では大食堂も7階にはありませんね。日本庭園には七角形の七福殿があります。石灯籠をチョット大きくしたくらいのもので、ここを一周すると簡単に七福神巡り(写真7)ができます。

のどが渴いたので屋上のカフェで生ビールを飲みながら年配の女店員から聞いた話によりますと、昭和25年から4年間ゾウが屋上で飼われていたそうです。名前は「高子」ちゃん、大きくなりすぎたので上野動物園に移したそうです。クレーンを使って下ろしたそうですが、大変な騒ぎだったとのこと。

普段何気なく利用しているデパートもそれぞれ歴史と伝統があり、その気になって探訪すると面白い発見があるかも知れません。

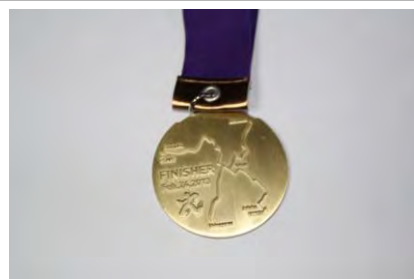
三越本店や伊勢丹なんかも候補にしてはいかがでしょうか？

さあそろそろ帰りましょう。南口にもまた別のキューピットが見送ってくれました。

2013東京マラソンを走り終えて

生2期 鈴木研治

東京の真ん中を3万6000人のランナーが駆け抜ける東京マラソン大会を支える1万人のボランティア、そしてランナーに温かい声援を贈る130万人を超える沿道の観衆が一体となる「東京マラソン」は昨年11月に世界的にも評価され世界でもメジャーなマラソン大会で構成する「ワールド・マラソン・メジャーズ」の



6つ目の大会としてアジアで初めて加入することになりました。

2年間にわたる各大会の成績をポイント化して総合成績を争い、男女の優勝者には各50万ドル（約4千500万円）の賞金が贈られる。

今後より多くの世界のトップランナーが東京マラソンに出場しハイレベルなレース展開になると期待されています。（今回の東京マラソンの賞金は1位：800万円、2位400万円、3位200万円です。）

さて、私は東京マラソンの当日、朝6時起床、軽く準備体操、7時朝食（餅2個）7時30分自宅を出て、歩いてスタート地点の新宿中央公園に向かった。途中中野坂上で「イーストホテル」に宿泊した山梨県から参加する青年（第1回から前回まですべて落選、今回ようやく当選）と出会いマラソン談義をしながら、着替え場所まで同行お互いの健闘を交わし別れた。

私自身は、2007年、2008年は当選して歩かずには完走が出来た。しかし、2009年以降抽選倍率が10倍を超えて落選の連続である。

東京マラソン財団は、2011年から一般抽選とは別に10万円以上の寄付で出場権を得られるチャリティ枠（3千人）を設けたこともあり、2012年と今年はチャリティ枠で出場し、被災地支援チャリティランナーとして登録、復興に向けた励ましの「メッセージ」を背中に書込み走ることにした（写真左・中）。

8時半には手荷物を大きいビニール袋に入れてゼッケン番号を記入し、トラックに預け、トラックはそのままゴール地点まで移動する。

ランナーは軽装で、寒空の下に待機しなけれ

ばならない。スタート時間の9時10分、気温は4度、風速6mと風が強く、体感温度は更に低いと思った。スタートまでの数十分は拷問のような時間だった。

スターターの猪瀬知事が号砲を撃つと、先頭のランナー達が一斉に飛び出し、爆発音とともに紙吹雪が舞った（号砲から約20分後に最終走者がスタートラインを通過したとのことであった）。

新宿の高層ビル街を走り出して、沿道の声援を受け、曙橋手前の下り坂は若干セーブして走り、皇居前では、皇宮警察音楽隊の元気の出る曲に励まされ、猪瀬知事と「ハイタッチ」した。

日比谷交差点にさしかかると、品川を折返してきたカモシカのような足をした、先頭集団とすれちがい、その速さの違いを痛感した。

増上寺や芝公園の後ろに聳え立つ東京タワーを眺めながら走り、品川で折り返し、有楽町のガード下に差し掛かった時、私の名前を呼ぶ声が聞こえた予期せぬ出来事で良く見たら町内会婦人部の3人であった。勇気百倍その場は早く走った。

銀座、京橋、日本橋のショッピング街、この日は様相が一変、コースの沿道は応援の観客で埋め尽くされ、興奮と熱気で華やかな花道を気分よく駆け抜け、京橋の高速の下で孫達の家族が手渡してくれたチョコレートを食べ元気をもらった。人形町から下町の温かい雰囲気の中、トマトやバナナを食べながら、浅草雷門を目指した。観客や応援のイベントで浅草雷門の賑わいは最高潮であった。

雷門のコーナーを右に曲がると正面にスカイツリーが現れ、ランナーの皆は、写真を撮った

りして、ゆっくりと走っていた。再び日本橋、東銀座では新しい歌舞伎座を左に見て、築地都コース終盤の舞台は豊洲、東雲エリアで、ここまできると歩幅は小さくなり、気力で足を動かすこととなり、自重してペースを落として走り続けた。

沿道から「苦しいのはあと少し、何時頑張るの、今でしょう！」の声に自然と笑みがこぼれた。そして、チャリチランナーとして背中に書いた「震災復興：宮城県」の文字をみて「爺ちゃん！俺、石巻から来たんだ！頑張っぺ！」との仙台弁が懐かしく、大きな声で「有難う」と返事した。追越して行く多くのランナーから、励ましの声を掛けられ、チャリチランナーとして参加したことを嬉しく思った。

残る有明エリア、それぞれの思いを胸にフィニ

ッシュゲートをくぐり、走りきった達成感で興奮して、更に前に進み、完走者に大きなバスタオルを肩に掛けてもらい、更に[F I N I S H E R]の金メダル（写真右）を首に掛けられた瞬間は、感動で胸が熱くなった。

近年、加齢により急激な走力落ちの歯止めが利かず、顕著にタイムに表れているが仕方ない。幸スタミナと距離には、不安を憶えないのが救いである。「今日もきっといいことがあるぞ」と晴れた日の早朝ランニングは、いっそう足取が軽くなる。

残りの人生「生涯ランナー」を自分のモットーにして、「ユーモアと遊び心」を忘れずランニングを続けたいと思っている。

詩二題

20期 卯辰敏子

恋は天国へお嫁お
もつていかれた
あなしもおいてさ
つんぐろいこよ
ついでいこよ
手ひらけ
つんぐろいこよ
おたりはど
指りふかいど
落したり
ひろくおえし
かえりこ
平成二十四年

いのち
かや
いのち
あな
はつ
あけ
ま
昔



お知らせ

東部ことぶき今後の行事予定（平成25年7月～平成26年6月）

7月2日(火) 平成24年度総会
7月25日(木)・26日(金) キッズ・プラザ塔山
「囲碁・将棋であそぼう」
10月5日(土)・6日(日) 「東部まつり作品展」
10月中旬 歩こう会（予定）
11月上旬 バス旅行
12月下旬 キッズ・プラザ塔山「昔あそび」
平成26年1月下旬 新年研修会・懇親会
1月中旬 キッズ・プラザ塔山「親子もちつき会」
3月上旬 さくら館まつり「伝承あそび」

4月下旬 歩こう会（予定）
6月下旬 平成25年度総会
*毎月1～2回懇親麻雀会を予定しています。日時はその月の「ことぶきの日通信」をご覧ください。
*その他直近の行事などは毎月の「ことぶきの日通信」にてお知らせいたします。
*毎月第1火曜日は「ことぶきの日」です。今年度から開始時間：13時～、所：宮園高齢者会館。手芸、折紙をはじめ麻雀卓、囲碁・将棋盤等ゲームも用意しています。お気軽にお立ち寄り下さい。